

平成 29 年度第 2 回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：平成 29 年 11 月 24 日（金）9：30～11：30

場所：松戸市役所 新館 5 階 市民サロン

出席者：柳澤委員（会長）、藤村委員（副会長）、池澤委員、村山委員、小川委員、森委員

○議事

- (1) 前回議事の確認
- (2) 全体計画について
- (3) モデル地域計画について
- (4) 東松戸まちづくり用地活用事業について
- (5) その他

(1) 前回議事の確認

事務局より、平成 29 年度第 1 回松戸市公共施設再編整備推進審議会の議事内容及び前回審議会で質問のあった松戸市市民交流会館の利用状況等について説明を行った。

(2) 全体計画について

事務局より、公共施設カルテの様式（案）、松戸市公共施設再編整備基本計画に係る全体行程表（構成案）について説明。

<主な意見>

- 施設カルテは毎年度更新するのか、または、3 年に一度程度の更新を想定しているのか。
- 施設カルテの更新について、貸室別稼働率等を毎年度の更新とする場合、職員の負担が大きくなることが考えられるため、すべての項目を毎年度の更新とするのではなく、メリハリをつけた更新を行う必要がある。例として、稼働率等の細かなデータに関してはモデル地域計画を検討する際等に収集することとし、修繕履歴等の比較的容易に収集できるデータは毎年度の更新とする形などが良いと思う。
- 将来的には施設ごとに施設ナンバーを設定し、市が一括して管理することでデータの整理及び整合が行いやすくなるを考える。施設ナンバーの設定は習志野市で実施している事例がある。
- 全体行程表（構成案）について、教育施設は統廃合によるコスト縮減ありきではなく、将来的な教育の議論が必要な施設であることを考慮し、「統廃合」ではなく「再配置」等の表現とした方が良い。地域の理想に応じた教育の在り方を検討し、適切な規模を設定することで、再配置を図るといような教育の在り方の議論が規模の議論に繋が

るような前向きなマネジメントの方向性が良いと思う。また、福祉施設については、高齢化の進行等を踏まえ、社会福祉協議会等との連携なども今後議論していく必要があると思う。今後の検討に向けては、マネジメントの視点から施設の方向性を所管課に情報提示していくことで、所管課もまとめやすくなると思う。

- 小金原地域では、高齢化等の課題や、地域内の交通規制など、地域・学校・UR・交通管理者等の関わり方に苦慮している面がある。来月に地域ワークショップが予定されているが、地域意見の取り入れ方についても引き続きご協力いただきたい。
- 公共施設カルテの更新については、基本的に最新のデータに基づき分析を行いたいため、年度ごとの更新を想定している。財政課保有の固定資産台帳データと重なる部分については調整の上、今後整合を図っていく予定である。また、どこまで詳細なデータを掲載するかは、所管課の負担軽減等にも留意の上、今後検討していく予定である。
- 全体計画については、市の施策としてもエリアマネジメントを推進していく方向性を有しており、モデル地域計画のマネジメントの方向性についても、全体計画と並行して検討を進めている。ご意見を踏まえて、計画内容やとりまとめ・整理について検討を進めていきたい。

(3) モデル地域計画について

事務局より、モデル地域計画における検討テーマ（案）について説明。

<主な意見>

- 小金原地域の想定するアウトプットについては、小金原地域における公共施設のマネジメントの方向性を踏まえたうえで、小金原市民センターの位置づけを明確にしておく必要がある。一方で、学校の再編等は、教育サイドや地元との調整に時間を要することは理解できるため、学校は中長期的な課題としてとらえていくことが考えられる。
- 今後は、小金原地域だけでなく市内の他地区においても市民意見を聞いてほしい。行政側だけの検討ではなく、市民目線に着目し、市民の意見が反映された公共施設再編整備基本計画になることが望ましい。市民としても、小金原地域の取組を参考として、現在の松戸市が抱える問題等を意識し、自分たちでできることは何かを考えられるようになると思う。
- 小金原地域では、地域の中心にある小金原公園に普段から高齢者が集まっているが、高齢者がいて危険であるとの理由から、その周辺の商店街通りにおいては車両を通行禁止としている。高齢化が進行し、店舗の前まで車で移動する必要がある時代に、商店街の衰退し、買い物難民が発生している状況は本末転倒ではないか。地元団体や関連組織等と協力して今後改善していきたい。
- 鳩山町コミュニティマルシェの事例では、公共施設を活用していく運営者の視点とし

ては、公共施設の立地と構えが大事だと思う。そういった視点では、商店街等に隣接し、地域の中心に立地している小金原市民センターはやりやすいと思う。将来的には、地域の個性的な人に事業やコミュニティビジネス等を行ってもらえる場になればよいと思う。

- 新松戸地域のように小学校及び中学校が多数集結している地域においては、教育委員会の視点では、教育の在るべき姿のみの議論となってしまう、地域としてどうなのか、資産としてどうなのか等の議論がされないことが懸念される。
 - 新松戸地域においては、パークマネジメント的な視点に入れることも有効だと思う。例えば、新松戸南公園、青少年会館及び新松戸プールを含むエリアが東松戸地域の学校施設のセントラルパーク的な機能を有することで、小学校及び中学校がプールや図書館を共同利用及び管理することができる。学校施設と親和性の高い施設は集約化、コアな施設は各学校で管理する等のすみ分けができていると市民が利用しやすいと思う。このようなエリアマネジメントを検討していく方向性が良いと思う。
 - 日本では比較的多くの学校で体育施設（プール等）を学校ごとに所有・管理しているため、地域の実情を考慮しながらになると思うが、体育施設の集約化及び共同利用については、検討の余地があると思う。名古屋では、公園管理を行政から民間に委託して、公園内にクラブハウス等の整備を行い、スポーツ団体や学校が共同利用することで、駐車場料金収入と併せてであるが、ビジネスモデルとして成立している事例もある。
- ご意見を踏まえ、モデル地域計画の検討テーマについて、引き続き検討を進めていきたい。

(4) 東松戸まちづくり用地活用事業について

事務局より、東松戸まちづくり用地活用事業の進捗状況について説明を行った。

- 12月1日に提案〆切を予定している。
- 12月25日にプレゼンテーションによる審査を予定している。審査結果（事業者選定結果）については、次回の第3回松戸市公共施設再編整備推進審議会の中で報告する。

(5) その他

- 次回の第3回松戸市公共施設再編整備推進審議会の開催は、平成30年2月16日（金）9:30～を予定する。

（以上）